

PRAEVIDENTIA DAILY (10月28日)

昨日までの世界：ドルは対円、対ユーロで雇用統計後の横ばい状態が続く

先週金曜は、ドル/円とユーロ/ドルは米長期債利回りが横ばい圏内に留まる中で、雇用統計発表後のドル安水準での横ばいが続いた一方で、米株価続伸・最高値更新にも拘らずNZドル、豪ドルやカナダドルの対米ドルでの下落傾向が続いた。ドル/円は、後場の日経平均の下落に引っ張られ97.20円近辺から一時96.94円と97円割れへ軟化する局面もみられたが、その後NY時間までには97円台を回復し、結果として雇用統計発表後2日目の安値水準である97円台前半で横ばい圏内となった。米経済指標は悪く、耐久財受注（除く輸送機器）は前月比-0.1%と予想外のマイナス、ミシガン大消費者信頼感指数（確報値）も73.2と大幅に下方修正され、米長期債利回りの小幅下押し要因となったが、ドル/円をはじめ為替市場への影響は限定的だった。

NZドル、豪ドルの続落は米株価続伸との関係では不自然だが、中国短期金利の上昇傾向継続と中国株安加速（上海総合は-1.4%）の影響をより強く受けているとみられ、今後も中国短期金融市場、株式市場動向そして人民銀の資金供給スタンスが変化するかが注目される。その点、先週金曜にMNIは人民銀関係者の発言として、短期金利が高過ぎればリバースレポを再開する方針を報道しており、当局の対応が注目される。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.1	+0.00	-0.00	-0.01	-0.01	-0.01	+0.00	+0.4	-2.7	+0.8	-0.1
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.0	+0.01	+0.01	-0.00	+0.00	-0.01	-0.01	-0.3	+0.4	-0.1	+0.06
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	+0.00	-0.00	-0.00	-0.00	-0.02	-0.01	+0.1	+0.4		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-0.4	-0.00	-0.01	-0.00	-0.01	-0.02	-0.01	+0.0	+0.4	-1.4	+0.3
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-0.9	+0.00	-0.00	-0.00	-0.02	-0.03	-0.01	+0.0	+0.4	-1.4	+0.3
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+0.2	+0.01	-0.00	-0.01	-0.01	-0.01	-0.00	+0.0	+0.4	+0.8	+0.3

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

主要通貨ペアの前週比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化(先週1週間)

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.3	-0.00	-0.01	-0.01	-0.07	-0.07	-0.00	+0.9	-3.3	-2.9	-2.7
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独株価
ユーロ/ドル	+0.8	+0.02	+0.01	-0.01	-0.01	-0.08	-0.07	-0.1	+0.9	-2.7	+0.06
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
豪ドル/米ドル	-1.0	-0.04	-0.05	-0.01	-0.08	-0.15	-0.07	+0.4	+0.9	-2.8	-1.5
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	世界株価	米株価	中国株価	CRB
NZドル/米ドル	-2.6	-0.02	-0.03	-0.01	-0.11	-0.18	-0.07	+0.4	+0.9	-2.8	-1.5
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.0	-0.02	-0.03	-0.01	-0.03	-0.10	-0.07	+1.5	+0.9		
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	世界株価	米株価	原油WTI	CRB
米ドル/加ドル	+1.6	+0.08	-0.01	-0.09	+0.04	-0.07	-0.11	+0.4	+0.9	-2.9	-1.5

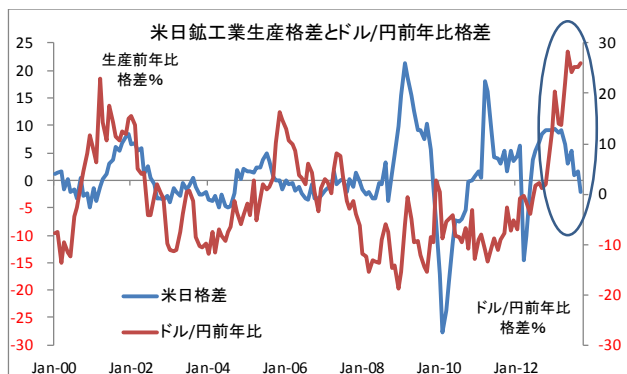
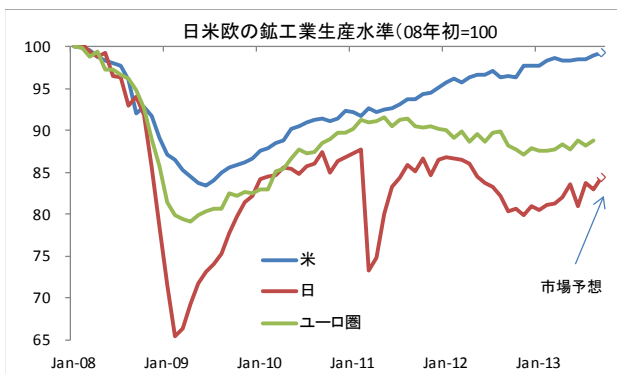
(注) 為替相場、株価および商品価格は前週比変化率、金利は前週比変化幅(%ポイント)。

## きょうの高慢な偏見：日本のアウトパフォーマンスでも円高とはならない

今週は FOMC、日銀決定会合および RBNZ 金融政策決定などが重要イベントで、通常であれば FOMC は市場を大きく動かす材料となるはずだが、現状では Fed の資産購入縮小開始予想が来年 3 月と随分先に後ずれしており、現時点で大きな金融政策スタンスの変更が示される可能性は低いことから、今回会合は米長期債利回り、株価および為替市場に大きく持続的な影響を与えるような内容にはならないとみられる。Bernanke 議長の記者会見も予定されていない。とはいえ、声明文における景気判断の変化が市場のタカ派/ハト派の認識に与える可能性がある。当社では、ハト派/タカ派の場合でドルの対主要通貨の相場は異なる反応を示すとみており、ハト派的な内容の場合にはポンドや豪ドルが対ドルで上昇し易く、タカ派的な内容の場合にはドル/円が上昇し易いとみている（詳細は当社ウィークリーレポート「[FOMC：相手選びは慎重に](#)」を参照）。

本日の相場材料は比較的少なく、①米 9 月鉱工業生産（22：15、前月および市場予想ともに前月比+0.4%）、② Dale・BoE 金融政策委員・チーフエコノミスト発言（22：20、ハト派だが、最近ハト派度がやや後退）、③ 米 9 月中古住宅販売成約指数（23：00、前月-1.6%、市場予想 0.0%、前月比）、などしかない。

FOMC を明日に控えているほか、米政府機関閉鎖の影響が出る前の 9 月分計数であることもあり、米経済指標発表への市場の反応は鈍いかもしれない。基本的に米経済指標が市場予想比上振れであればドル/円の上昇、逆であればドル/円の下落に繋がることが多いが、鉱工業生産については、日米鉱工業生産格差とドル/円（いずれも前年比）の関係をみると、2008 年のリーマンショック前までは米日の相対的な鉱工業生産の強さの違いがドル/円の変動と連動していたが、リーマンショック後ではその関係が崩れている。特に今年入り後では、前年比で見れば Fed の資産購入縮小開始期待を受けたドル高とアベノミクスの一部である日銀の異次元緩和を受けた円安の組み合わせがドル/円を大きく押し上げている一方、米日の鉱工業生産をみると、指数の水準的には米国がリードする一方、前年比では日本分がアウトパフォーマンスしてきており、今週発表の 9 月分も米国で+2.9%の一方、日本分は+5.0%に達する予想であるため、ドル/円と方向が逆になっている（[下図を参照](#)）。これは日本の良好な景気指標は、インフレが依然として 2%を大きく下回る中で金融引き締めや円高に結びつかないためとみられる。ドル/円は米経済指標の強弱により上下するが、異次元緩和による根強い円安圧力もあって下値は限定的だろう。



### ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。

ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいますようお願い申し上げます。

当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。

当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。